

9年目の味噌作り講習会

●再度味噌作り
から見えること



安井さんと高橋さん

2・28 味噌づくり講習会



最初の講習会は

1回目は使い

捨て時代から
榎田助さん、田
頭千鶴子さん、
安井富子さんの

御三方が来て下さって、何故、味噌を作るかという問いをされたのをよく覚えています。これは今でも考えます。お金をだせば、添加物のない味噌を買うことができます。でも自分で

作ることによって、色々なことが見えてくる。美味しいということも大きいですが、大豆、糀、塩の生産者のことに気持ちが行きますし、手

間暇かけることで自分の身体が反応する喜び、お金で得られない関係にも考えが及びます。講師の方々との関係が正にそのもの。味噌作りがそのことを考えるきっかけになる。まるごと館がずっと模索しているのもその

間暇かけることで自分の身体が反応する喜び、お金で得られない関係にも考えが及びます。講師の方々との関係が正にそのもの。味噌作りがそのことを考えるきっかけになる。まるごと館がずっと模索しているのもその



バラン



参加者の皆様

ことです。酒屋さんで空のビール瓶を購入したのがもう9年前。それを今も使って大豆つぶしています。

当日の講習会は
初めての4人の方を含め
10人の方が大豆を煮て持つ



バランを切る



ぶし具合や第2段階の糀の膨らみをこまめに見て回っておられた。バランをカメの周に合わせ



て来られました。初めての方は石を苦勞して集められた。安井さんと高橋さんが味噌づくりの工程を説明され、それにそって皆さん奮闘されました。力が要りますから、おふたりは大豆の

て来られました。初めての方は石を苦勞して集められた。安井さんと高橋さんが味噌づくりの工程を説明され、それにそって皆さん奮闘されました。力が要りますから、おふたりは大豆の

て来られました。初めての方は石を苦勞して集められた。安井さんと高橋さんが味噌づくりの工程を説明され、それにそって皆さん奮闘されました。力が要りますから、おふたりは大豆の

で切り、カビがないよう濃厚食塩水で、バランやカメを拭きます。でもカビが発生しても大丈夫ですよ。最後にしっかりとよく出来上がりです。

酒粕でふたを

昨年酒粕でふたをされた方のお話では、カビは生えないし、酒粕が発酵液を含み、酒粕自体が随分美味しいそうです。もちろん味噌も。一度経験されてもいっけなと。

ありがとうございました

安井さん、高橋さん、お世話になりました。もう少しまるごと館に来て下さったら嬉しいです。甘えすぎかなあと思いますが、お願い致します。参加者の皆様もありがとうございました。



酒粕でふたを



講習会后昼食を共に

講師のおふたり

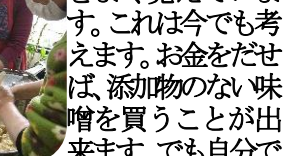
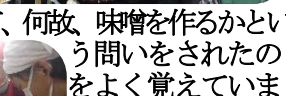
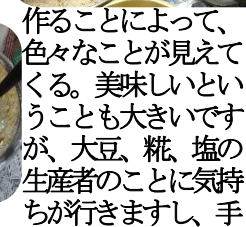
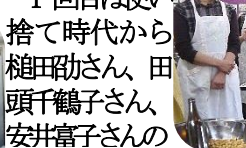
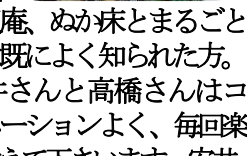
講師の安井富子さんには6月のぬか床、11月の沢庵、2月の味噌作りと1年に3回、何年も来て下さっています。

高橋佐知子さんは高槻から、今回味噌は初めてでした

が、沢庵、ぬか床とまるごと館では既によく知られた方。

安井さんと高橋さんはコンビネーションよく、毎回楽しく教えて下さいます。安井

さんは「あと何年こうして来られるかなあ」とこの言われます。味噌はもう9年目ですから、未経験の多くの方がこの講習会に参加され、ご自分で作られるようになっていきます。



八幡まるごと館だより

2018年3月4日/96号

<発行> 八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20
(TEL&FAX) 075-983-3664(9時~17時)
(E-MAIL) yawata@marugotokan.net
ホームページは <http://marugotokan.net/>
又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。

間暇かけることで自分の身体が反応する喜び、お金で得られない関係にも考えが及びます。講師の方々との関係が正にそのもの。味噌作りがそのことを考えるきっかけになる。まるごと館がずっと模索しているのもその

2月にこんなことしました

文化センターミニギャラリーでの絵手紙作品展のこと



展示会場

2月1日から2月11日まで文化センターミニギャラリーでまるごと館絵手紙講習会の作品展を行いました。講師の森本玲子さんに随

味噌づくりの感想を

分お骨折りをいただきました。森本さんのギャラリー展示文中から八幡まるごと館を応援して下さい。森本さんが入り口に置いて下さった芳名録ノートに『八幡まるごと館そして絵がみを描かれる皆さんに会えた事、感謝の気持ちでいっぱい。私のはほんの少しのアドバイスでこんなに生き生きと自分らしいすばらしい作品ができました。絵がみを続けてきて良かったと、作

